●　手づくり精神を活かし“まちのメイクアップ”

～花とみどりでつなぐ　まちなかメイクアップ作戦～

ワークショップでの意見

花やみどりでまちをつないでいきたい
・路地や店先、お休み処
・お地蔵様などのまわり
・ごみ置き場のまわり
・オープンガーデンをやっているお宅あり（増やしていきたい）

町内でプランターなど
・小さくても良いので自治会ごとでプランターを置いたりできないか？
・妻沼南小で、毎年プランターをひとつづつ配布している。

手入れ・維持が大変
・手入れ・維持が大変…（工夫できることはないか）
・公園や聖天山内などボランティア活動も行っているが、今のところで手一杯。

＝考察＝

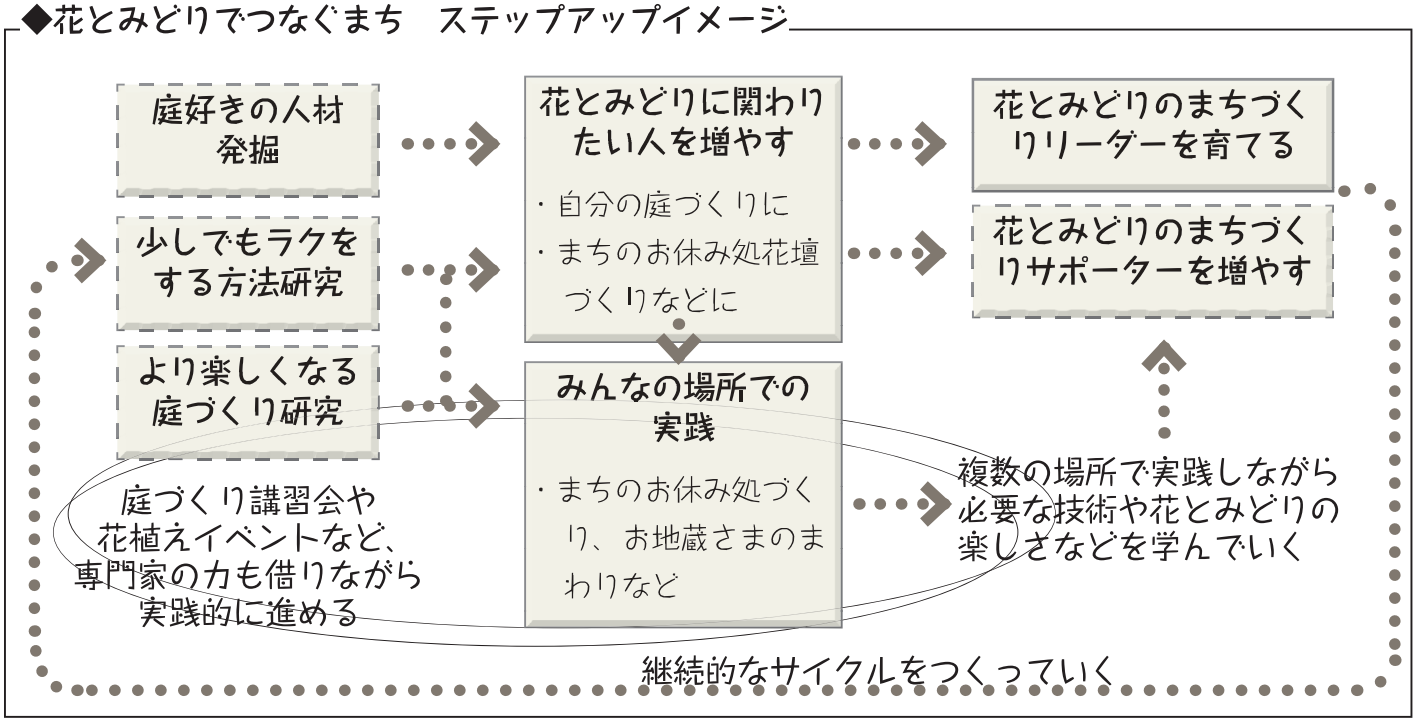
水に囲まれ、通りに花やみどりがある環境はうるおいがあり、そのような空間を増やしていきたいという意見がとても多くありました。

また、現況で、特に路地沿いなどのお宅には豊かな庭空間をしつらえているお宅も多く、花づくりを進める団体も存在するなど、地区内には庭好きの方が少なくありません。

一方で、現在花壇の手入れなどをボランティアで行っている方々などからは、その大変さや費用の問題なども指摘されており、単純に「量的に花やみどりを増やせば良い」とはいかないようです。

ここではまず、庭づくり名人の方のお知恵をお借りしながら、それぞれの庭先･店先、共有の空間などで、花とみどりがつながるまちづくりの進め方や、コツなどについて検討しています。これらの取組みを進めながら、庭づくりやガーデニングに意欲のある方の場づくりやリーダーの育成も進めたいものです。

◆花とみどりでつなぐまち　ステップアップイメージ



◆個々の庭先・店先で…それぞれのスペースの大きさ・形状に合った方法でほどよくつなぐ

小さなスペースでも豊かに見える植栽

・コツは目線の高さ以上まで植栽をのばすこと。
・枝やツルを誘引する支柱やネット・緑化フェンスなどを使って誘引すると鑑賞もしやすく魅力的な植栽に。





擁壁や構造物の段差、建物の際部分をやわらかく

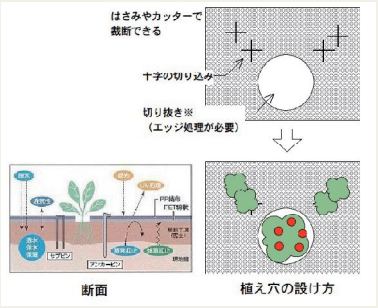
・擁壁や塀、建物など構造物の建ち上がりの部分に植栽を施すことで、緑の効果が活きています。
・構造物自体も自然の風合いのあるものなどで緑をひきたてるやさしい雰囲気に。



◆少しでもラクに手入れするには…？

花壇づくりの敵＂雑草”との戦いを避ける方法

・防草シートを使って植え穴を限定すると、草むしりの手間を最小限に抑えることができます。

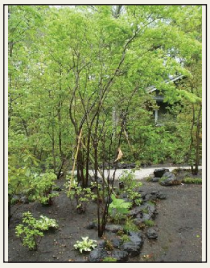




樹木を手入れしやすい大きさに保つには？

・１～２年に一度は切り戻し、すかしを行うことで、幹の成長を抑制し、成長がゆるやかに。
・また、株立ち樹木の場合、個々の幹が細く、成長がゆるやかです。





◆聖天様の門前町として考えるべきことは…？

聖域をひきたてるしつらえを意識して

庭先・店先もそれぞれのやり方でのびのびとやるのでも、つながれば楽しい空間になります。

ただし、大我井神社から聖天山へはまっすぐのびる参道と左右対称に配置される建造物、対照的にその周囲は自然を感じさせる杜の空間で、特別な聖域をつくる様式がとられています。

仕切りがなく隣接する部分では、あまり外国の様式やモチーフをバッチリとりいれたデザインなどはミスマッチとなってしまうので気をつけましょう。



聖天様の杜　豆知識

聖天様と大我井神社がかつて一体であった頃、その周りには現在以上に大きな杜が広がり、杉が多かったそうです。

また、「聖天様は松を嫌う」と昔から言われ、松は植えられていないそうです。

※ このページは庭づくりの専門家である玉崎弘志さんのアドバイスをいただきながら作成しています。

～手づくりサインで　まちゆく人のおもてなし～

ワークショップでの意見

門前町らしくわかりやすい案内・サイン整備
・家の近くで、よく道をきかれ、案内が必要ではと思う。
・既存の手づくりサイン、感じが良い。ただ、デザインがいろいろで、もう少し一体感があると良い。
・古びてしまったものもあり。

歴史のあしあとを伝えたい
・お地蔵様にもいわれや御利益があり、教えてあげたい。
・路地や裏道も歩いてもらいたい。そのためにも、案内サインの設置が必要ではないか。

花とみどりのアピール
・個人宅の庭先にも様々な植物が植わっている
・樹木や花の名前の名板などつけると関心が高まるのでは？
・聖天山敷地内では手づくりの樹木名板をつけている。

＝考察１＝

「もっとまちの魅力にふれてもらいたい」「まちなか散策の手助けに」などの理由から、地区の案内サインの必要性が指摘されています。

現在も手づくり看板を個性としたまちづくりが進められている中で、手づくりの素敵な案内サインも地区内につくられてきました。

これらも活かしながら、またメンテナンスや更新もかねて、このまちに合った手づくりサイン計画を進めていくためのステップや、デザインのあり方などを検討しました。

◆まちのサインをどのように考えていくか？

検討するサインの種類

- 地図のある案内板
- 主要な見どころの誘導サイン
- 歴史由来の説明板や樹木名板

まず、現時点でサイン誘導すべきもの、今後まちづくりの中で魅力向上を図りつつ誘導していくものを検討する必要がある。

案内・誘導・紹介が必要な場所の洗い出し
・将来の歩行者ネットワークと連動するように配置を考える。

案内地図・誘導サインはまちづくりの実践に沿って
・案内・誘導する対象の景観整備に合わせたタイミングで

歴史由来・樹木名板は作りやすさと地区内での統一感の両立をポイントに仕様やデザインを考える

紙媒体での”まち歩きマップ”なども合わせて検討

◆サインデザインを考える　案内・誘導サイン編
～デザインに統一感をもたせることで案内性も高める～

既存の手づくりサインデザインをふまえて

ワークショップでも話題に上っていた、木製の誘導サインなど、既存の手づくりサインには自然素材の魅力があり、これを地区らしい素材として活かしていくことが考えられます。





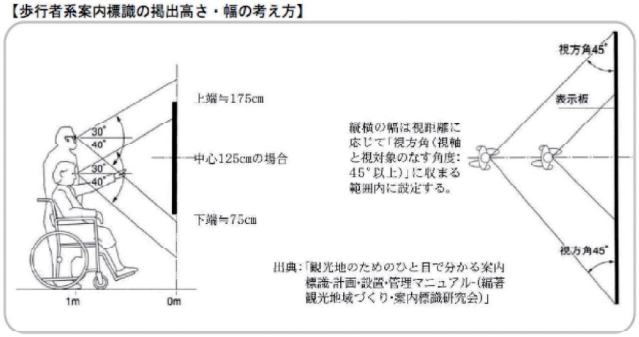
来訪者へのやさしさが感じられる既存の手づくりサイン。

案内サインは配置、置く（見る）場所や高さも重要

まず、観光駐車場やバス停など多くの人が利用する場所がサイン誘導の起点となります。

また、特に案内サインは視認に時間を要するため、誰もが安全・快適にサインを利用できる場所に、見やすい高さも考慮しながら設置する必要があります。

【歩行者系案内標識の掲出高さ・幅の考え方】



◆サインデザインを考える　歴史由来サイン・樹木名板編

“手づくり”を念頭に更新しやすい仕様を考える

ワークショップでも話題に上っていた、木製の誘導サインなど、既存の手づくりサインの魅力を活かすことがベースになると考えられます。

サインフレームなど、地区で統一感を持たせるデザインを検討しつつ、個人でも設置可能なスタイルを考える

歴史由来サイン等は、地区イメージを伝える大切な手段です。手づくり感が伝わる素材やデザインに統一しつつ、個性が伝わるスタイルが考えられます。





このような事例も参考に

1　市内・成田用水沿い住宅地

■紙製でパウチされた樹木名板を木製フレームに貼付

2　小諸・旧城下町のエリア内

■紙製を額装し、壁に貼付

（1，2いずれも個人宅等で同様の仕様）

＝考察２　まずはお休み処や交通拠点から…＝

未永く利用しやすいサインとなるよう、検討から製作までは焦らずにじっくりと取組みたいものです。

現在設置されている魅力的な案内サインを基本に、また、まちづくりを進めながら少しづつ必要なところにサインを配置したり、観光客の年齢・国籍等も考慮しながら、その都度サインの表記内容や使用する言語、デザインを検討・共有していくことで、より効果的で、このまちにふさわしい＂手づくりサイン＂のシステムをつくっていく必要があります。

今後、まずはお休み処や交通拠点などサインの必要性の高いところから、景観整備と合わせた実践が効果的です。

● 路地空間も楽しむ

～まちを回遊する"お休み処”づくり～

ワークショップでの意見

心地良い路地が沢山あり、来訪者も楽しめるように
・表通りではなく住宅地内を歩いている来訪者も見かけるようになった
・幅広い回遊のためのお休み処を。
・芝川の水辺は貴重。もう少し歩きやすい空間に。

まちなかに休む場所が少ない
・気軽に休める場所が少ない
・住民にもより処となる場所が欲しい

トイレもない
・観光客（特に年配の方）が利用しやすいトイレが欲しい

お休み処の整備
・ちょっと座って休めるところが欲しい
・住んでいる人も観光客も共用で良い
・食べ歩きができるよう、ゴミ箱などもあると良い
・あずまややパラソルなどの粋な休憩所

＝考察＝

地区住民・来訪者双方にとって、まちを歩く助けとなるお休み処があることは魅力的であり、地区の散策や回遊を促進していくためには、観光客等がトイレを利用しやすいような環境・雰囲気づくりに地区ぐるみで取り組んでいくことも大切です。

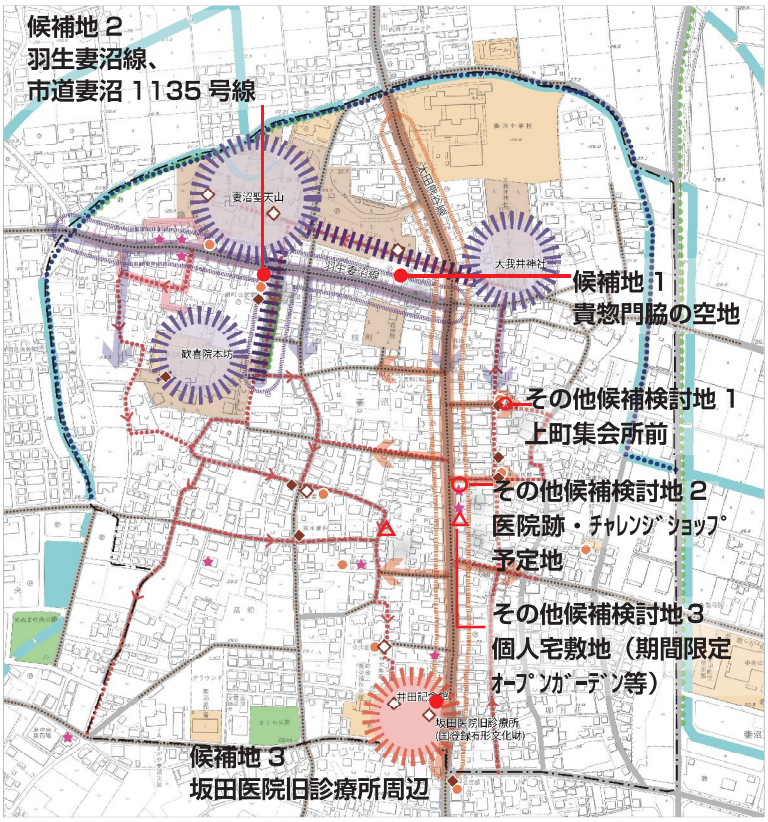
一度に多くの整備は難しいと思われますが、ここでは歩行者に必要なスペースを確保し、整備や維持管理にできるだけ負担をかけない工夫も含めて、地元の方々がつくり手として楽しみながら少しずつ整備し、必要な機能を獲得していくことを目指し、候補地および整備イメージの検討を行います。

◆歩行者回遊ネットワークから考えるお休み処の候補地

拠点タイプ
・特に来訪者の回遊を促進する拠点となるお休み処
・案内板などサイン設置とともに休憩機能を充実。庭のような、やすらげる空間に。

サブ拠点タイプ
・拠点を補完し、日常的には地元の人たちのよりどころとして機能したい。

期間限定タイプ
・所有者の了解が得られれば、イベント時等期間限定でオープンガーデンとして公開し、臨時のお休み処を設置したい。



◆お休み処の整備イメージを考える　－１　貴惣門脇の空地活用

候補地の特性整理

・貴惣門至近で、貴惣門を眺めるには絶好のロケーションであり、聖天山門前町の主軸である羽生妻沼線に面している。
・さらに、羽生妻沼線を挟んで既存の屋内お休み処である「めぬま館」がある。
・聖天山敷地から羽生妻沼線への抜け道、聖天山とまちをつなぐポイントともなり、お休み処整備が効果的。
・現在は砂利敷き。西側は民家に隣接。





整備課題・整備のポイント等

・聖天山とまちをつなぎ、めぬま館と一体的に利用可能な屋外のお休み処としての整備
・聖天山の神聖な空間をひきたてるデザイン
・隣接宅地との緩衝

整備イメージ

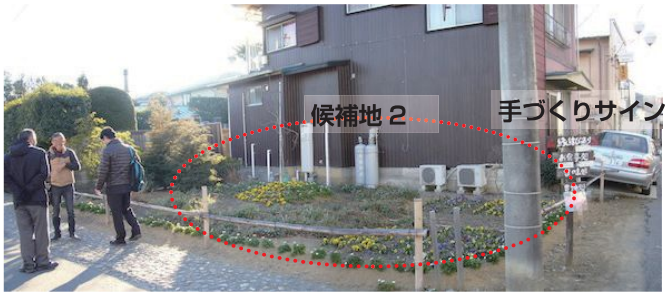


～まちを回遊する"お休み処”づくり～

◆お休み処の整備イメージを考える　－２　羽生妻沼線、市道妻沼 1135 号線交差部

候補地の特性整理

・歓喜院本坊から聖天山への参道に入る入口部分のまちかどであり、本地区の歴史的環境を象徴する重要なまちかど。
・現在、地元有志により花壇がつくられ、きれいに手入れされている他、手づくりサインもある。



整備課題・整備のポイント等

・聖天山から歓喜院本坊へ、その奥の路地散策へと誘導するまちかど広場機能をもったお休み処
・参道空間と一体的な空間デザイン
・既存のサインや花壇を活かしながらの整備
（花壇を育てている地元有志の了解を得て、協力いただくことが必要）



整備イメージ



市道妻沼 1135 号線の並木も強化した場合



◆お休み処の整備イメージを考える　－３　観光駐車場の拠点として坂田医院旧診療所周辺

候補地の特性整理

・観光駐車場があり、坂田医院旧診療所、井田記念館が立地する地区南側のエントランスであり、将来的にまちあるきの起点としたい場所。
・現在地元有志により椅子・テーブルも設置されている。
・市の設置した案内サインがある。



整備課題・整備のポイント等

・優れた近代建築である坂田医院旧診療所や、デザインされた鋳鉄の外構柵などを活かし、一体的な空間デザインを検討する。
・休憩スペースとサインの集約配置（現在の椅子・テーブル位置近くに）。
・坂田医院旧診療所が映える植樹の検討。

◆お休み処の整備イメージを考える　－４　集会所の一角を活用した小さなお休みどころ

候補地の特性整理

・地区内には数カ所、観音さまやお地蔵さまが集会所の一角や近くに祀られており、お花も供えられ、大切にされている。
・いずれも小さなスペースであり、道路の拡幅予定があるところもあるが、地元の方々がお参りをしたり、集会後にたたずめるスペースを設け、手入れをしながら、まち歩きをする方々にも憩いの空間として提供することが考えられる。





整備課題・整備のポイント等

・お地蔵さま観音さまの周りだけでなく、花・みどりを周辺もつなげ、一帯としてやさしい雰囲気の空間をつくっていく。
・道路の拡幅予定地にベンチ等を設置する場合は、景観まちづくり活動の一環として行政が関与しながら実現を目指す必要がある。

～通りに名前を！～

ワークショップでの意見

通りに愛称をつけては

・通りや路地に共通認識となっている通りの呼称がない。

・商店街は愛称がついているが（羽生妻沼線は縁結び商店街等）、通りとしての愛称があると親しみがわく

アイディアとして

・羽生妻沼線は、縁結び通り

・太田熊谷線は、めぬき通り　など

＝考察＝

このテーマが生まれた背景としては、景観まちづくりを２つの県道を軸とした整備や路地・水辺のネットワークの形成に取り組むこと、羽生妻沼線が街路整備が行われ、今後、お休み処の整備や店先の演出などを進める際の共通した通りごとの景観まちづくりのイメージを構築し、親しみやすさを感じられるようにすることが意図されています。

また、現在の縁結び商店街や仲町なかよし商店街などの名称を活かしつつ、集客効果も期待できます。

今後、通りに愛称をつけるためには、次のような視点を持ちながら進めていくことが考えられます。

●道路の機能や役割に応じた愛称のつけ方

・県道は「○○通り」、主要な生活道路は「○○横丁」、路地は「○○小路」などの基本原則を定めます

・はじめて聞く人にもイメージしやすくなります

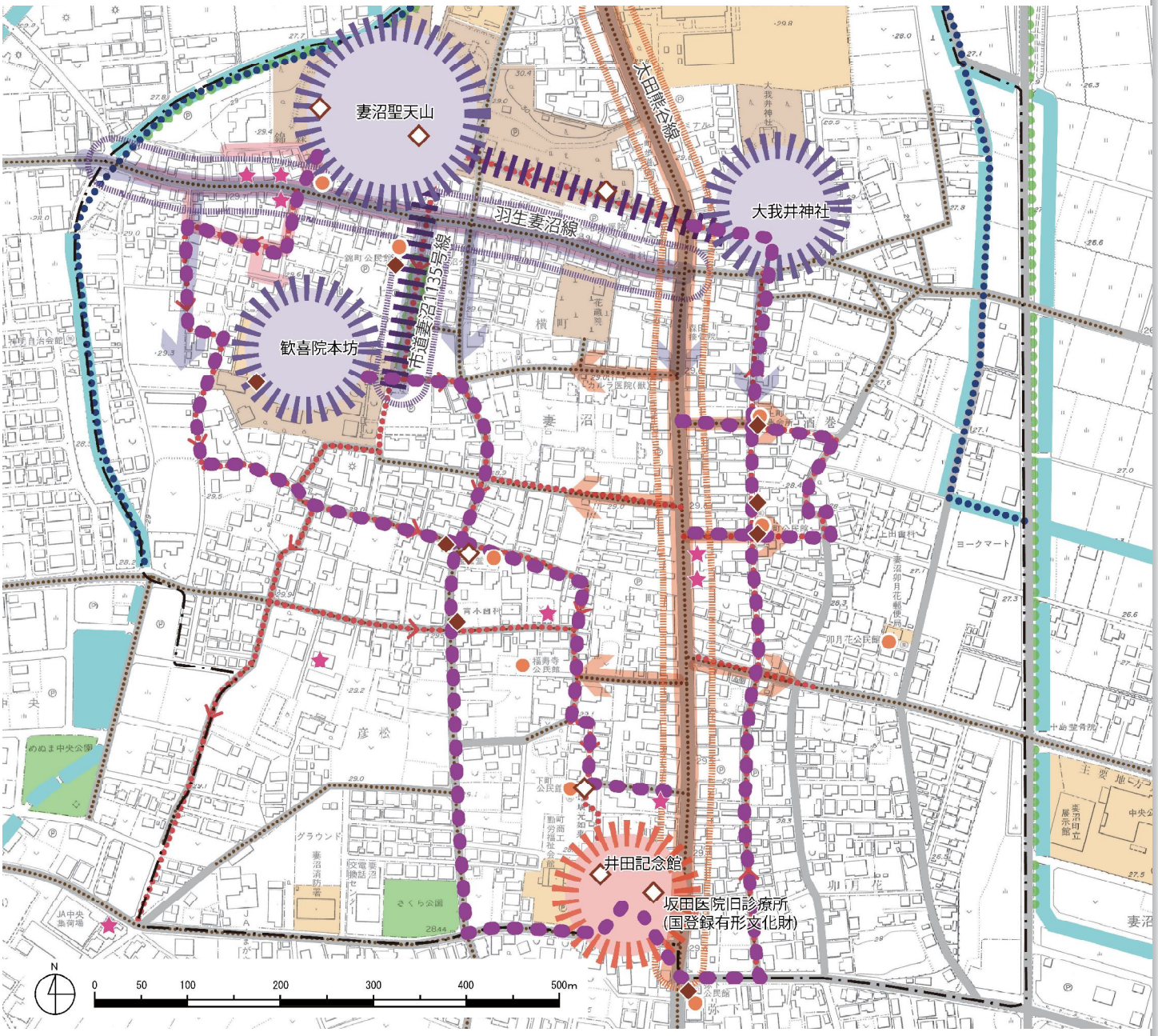
●「回遊モデルコース」の設定

・来訪者が地域の魅力を感じるためには、４つの拠点を結び、２つの県道（まち歩き軸）の機能を補完し、古くから地域で親しまれている路地、地域の大切な資源である歴史的な建造物や大きな樹木、観音さまや祠などの生活文化に触れることができる路地、今後、お休み処の整備が想定されている路地などを対象として、「回遊モデルコース」として想定し、通りに愛称をつけたり、サインを整備するなどを優先的に実施することが考えられます。



「回遊モデルコース」の路地のイメージ

回遊モデルルート（案）



凡　例

【拠点】
- 歴史拠点
- 歴史拠点を結ぶ参道
- 観光交流拠点

【まち歩き軸】
- 門前町の風情が薫る歴史まち歩き軸（羽生妻沼線・市道妻沼1135号線）
- 買い物・食べ歩き軸（太田熊谷線）

【お散歩軸】
- 路地のネットワーク
- 水辺のネットワーク
- 回遊モデルルート（案）

凡　例

- 公共施設
- 町会の集会所
- 公園・緑地
- 並木
- 水路・水辺
- 主要な道路
- 交通量の多い路線
- 対象区域
- 社寺
- 歴史的な資源（建造物など）
- 歴史的な資源（地蔵尊、碑、祠）
- 近代初期以前にあったとされる道筋
- 雰囲気の良い路地を巡るルート
- 地区内外の社寺を巡るルート
- しだれ桜を植樹した場所
- イベントの開催
- その他の資源（ワークショップで意見のあったまち歩きの楽しみとなる店舗）

※近代初期以前の道筋の復元は、荒井家文書を参考とした
※資源や雰囲気の良い路地は、平成25年度に聖天山周辺地区にお住まいの方と意見交換を行い、意見の挙げられたものを中心に記載